

「先生のための学校」 誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

子どもたちの学力格差が広がっています。クラスの学力実態を調べると、前学年の課題が確実に身につく、すぐに授業についてこれるA群は2割、十分とは言えない中庸のB群が5割、脳の機能には問題はないが怠けていたり、家庭の事情で学力のついていない子（私はこのような不幸な子を「仮性低学力児と呼んでいる）のC群が2割、特別なニーズの必要な子のD群が1割という状況が全国に広がっています。

別にあなたのクラスが特別大変ということではなく、これが普通ということ。このような事実にも配慮せず授業を進めていけば、授業内容の理解が進まないだけでなく、格差はますます拡大し、6月には中庸の子どもたちが反乱を起こして、指導困難に陥ることは必至です。

では、どうすればいいのか。答えは簡単です。授業のはじめ10分間を利用して、

5月は「さかのぼり指導」を行い、学力格差を縮め、学力回復にクラスをあげて取り組めばいいのです。

全部の教科で「さかのぼり指導」を行う必要はまったくありません。「さかのぼり指導」は、国語の読解指導の初歩と、算数の計算だけで十分です。国語は授業中に、今教えている教材を使って「逐語的読解」の指導をします。これを指導すると、市販テストでどの子ども100点が取れるようになるのでB・C群の子どもたちがすごい自信に満ちてきます。逐語的読解・算数のさかのぼり指導については「授業づくりと学級経営の技88」計算さかのぼりプリント（小学館）を参考にしてください。

第二講座

**班や座席はくじで決めるーマジメキ
パキ感が信頼を生む**

4月に引き続き、46回も担任されたべ

テランの先生のお話を紹介しましょう。

5月、担任が保護者からも子どもたちからも信頼をえるために決着をつけておかなければならない問題は「班や座席の決め方」だそうです。

若い先生のクラスがいつもガサガサしていました。理由は班や座席の決め方でした。その若い先生は「Aくんは自分のことがなかなかできないからBさんに面倒を見てもらおう、CさんとDくんはいつもケンカをするからいっしょにできないし・・・。と夜遅くまで、ああでもない、こうでもない自分で考えて、それをクラスに提案し、子どもたちの意見を少し聞き入れ、「これでいいですか!!」「はくい」とやっていたのです。だから、子どもたちにも保護者にも班決めをするたびに不満が蓄積していました。

それは当然のことです。意図があれば、それに対する反論は必ずあります。第一、誰もが納得のいく班決めなんてあり得ないのです。そのベテランの先生には教師に不満を募らせるような危険なことをどうしてするのか不思議だったそうです。

その先生の班や座席の決め方はすべて「くじで決める」やり方です。子どもたちや保護者には理由をこう説明します。「人生誰と、どこで、どうなるかわからん。だから座席はこれから1か月ごとにくじで決める。大切なことは、席をどう決めるかということではなく、班でいっしょになった人とどれだけ協力して、よい班をつくり上げるかです。さらに男女の並びについては「世の中、男のそばには女、女のそばには男、これが世の中の常識や、何か文句あるんですか」ということで決着がつくそうです。

子どもはくじが大好きだ

4月はいろいろあっても5月からはくじで班を決めます。封筒に入った男女別の番号くじを毎月の月末に引かせて班を決めます。子どもたちは席替えが大好きです。「そんなに喜んだら、今の班の人に失礼でしょう」と言ってもだれも聞きません。みんな、くじが大好きなのです。

仮性近視なので前の席に・・・というような事情の子は、班が決まってから班ごと入れ替えて、前のほうに移動させます。こうすると「くじで決まる」という原則を崩

さずに保護者の要求を満たすことができるということです。

班活動は楽しさが一番大切

「先生のための学校」の集会で「班決めをどうしているか」を聞いてみると講師陣はみんなくじだったので、若い先生方が驚いた様子だったことを思い出します。

「先生のための学校」の講師陣は班の決め方ではなく、班で何をさせるのかに重点を置いてクラスづくりをしているのです。

では何が班活動で大切なかということ、班活動で大切なことは楽しさを感じさせること。快適な情動が班活動を活発にさせる唯一の方法だということです。

班が決まったら、最初に班で取り組むことは、お楽しみ会に班の出し物を何にするか。それをどう実現するかということ。一か月に一度のお楽しみ会がクラスづくり、班活動の中心的な取り組みです。休み時間を活動の時間として取り組むと一か月あるとかなりクオリティの高いものが実現し、それがクラスの文化となつて、さらに子どもたちがキラキラしてくるそうです。

班での話し合いの仕方など班運営の仕方

などはしっかりと5月に教えてしまつたの後は子どもたちが自分たちで進めるので、すごく楽に班活動が進んでいくそうです。

学級会やお楽しみ会の運営は班長会に司会や書記などをやらせると、かなりうまくできます。その原動力は班長会議だそう。先生は班長会議にはアドバイスをしますが、学級会の事案やお楽しい会の運営には口を挟まないのが子どもたちの力を引き出す秘密だそうです。

5月から班活動、学級活動をスタートさせましょう。

久保のコメント

さすがはベテランですね。クラスがガサガサするような危険なことはやらない。それよりもできた班でどんな質の高い活動をやらせるかに多くのウエイトを置く。これがベテランの味だと思います。班長会議にはどんなアドバイスをするけれど、学級会やお楽しみ会は班長会に仕切らせるというのも、子ども集団を育てる基礎基本だと思います。5月はクラスづくりの出発点です。イメージ豊かにクラスづくりを始めましょう。